

令和3年度 全国私学教育研究集会京都大会 実施報告



令和3年10月21日（木）・22日（金）の2日間、京都府京都市の国立京都国際会館 外を会場に、「世界を見つめ、未来に挑戦～私学の先進的精神は時代を超えて～」を研究目標に掲げ、「全国私学教育研究集会京都大会」を開催しました。全国私学教育研究集会は、私学教育に係る諸問題の研究と今後の私学教育の発展をめざして、全国の私立中学校・高等学校・中等教育学校の教職員を参加対象とし、各地区の持ち回り制で毎年度開催しており、今年度は近畿地区が開催地区となりました。一般財団法人日本私学教育研究所（以下、当研究所）との連携の下、近畿地区私立中学高等学校連合会及び京都府私立中学高等学校連合会による周回の準備と、その加盟校から多大なるご協力を頂き、全国の私立中学校・高等学校・中等教育学校から380名の参加者を得て、盛会裡に終了することができました。関係各位に心より御礼申し上げます。

初日は全体集会として開会式と全体会を行い、全体会ではまず、京都府私立学校活動紹介1として、洛星中学高等学校オーケストラ部の演奏を行いました。続いて、日本私立中学高等学校連合会（以下、中高連）の吉田晋会長及び当研究所の平方邦行所長による「教育政策と私学情勢について」をテーマとした報告、最後に、公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事の冷泉貴実子氏による記念講演「京の文化」を行いました。記念講演の中では、冷泉氏が指導している京都光華中学高等学校の生徒による和歌披露を京都府私立学校活動紹介2として行いました。

2日目は私学経営、教育課程、生徒指導、特色教育、グローバル教育の5部会に分かれ、それぞれの部会研究目標の下で、講演、パネル・ディスカッション、実践発表等を行いました。

新型コロナウイルス感染拡大により、多くの都道府県で発令されていた緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が開催直前に解除となりましたが、昨年の秋田大会同様、大会関係者が一丸となり、徹底的な感染防止対策を行い、参加された先生方の協力も加わり、無事に大会を終了致しました。

第1日「全体集会」

◆開会式

開会式は、佐々井宏平・副実行委員長の開会のことばで始まり、吉田晋・当研究所理事長、摺河祐彦・実行委員長の挨拶の後、来賓の西脇隆俊・京都府知事、門川大作・京都市長からのご祝辞を賜りました。

続いて、登壇者の紹介が行われた後、次年度大会開催地区の中部地区を代表して、下屋浩実・次期大会実行委員長より令和4年度全国私学教育研究集会岐阜大会の案内も兼ねて挨拶が行われ、北村聡・運営総括委員長の閉会のことばで開会式を終了しました。



佐々井宏平・副実行委員長



吉田晋・当研究所理事長



摺河祐彦・実行委員長



西脇隆俊・京都府知事



門川大作・京都市長



下屋浩実・次期大会実行委員長

◆全体会

◇京都府私立学校活動紹介／報告／記念講演

開会式後の全体会では、まず、京都府私立学校活動紹介1として、洛星中学高等学校オーケストラ部が「オーケストラ演奏」を披露しました。

続いて、「教育政策と私学情勢について」をテーマに、吉田晋・中高連会長と平方邦行・当研究所所長が報告を行いました。

全体会の最後には、公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事の冷泉貴実子氏による、「京の文化」と題した記念講演を行いました。また、記念講演の中で冷泉氏が指導を行っている京都光華中学高等学校の生徒による「和歌披露」が私立学校活動紹介2として披露されました。



吉田晋・中高連会長



平方邦行・当研究所所長



冷泉貴実子氏



第2日「部会」

◆私学経営部会

「激動する時代の中で撓（たわ）まぬ私学経営とは」を研究目標として実施し、125名が参加しました。同部会では、①京都精華大学学長のウスビ・サコ氏による講演「真のグローバル化を目指して！～日本の子どもたちに伝えたいこと～」、②公益財団法人京都私学振興会理事長の藤林昭一氏による報告「京都私学の経営を支えて」、③学校法人藤華学院理事長の嵯峨実允氏、学校法人三重高等学校理事長の梅村光久氏、学校法人原田学園理事長の原田賢幸氏の3人のパネリストと姫路女学院中学高等学校理事長・高校長の摺河祐彦氏をコーディネーターとしたパネル・ディスカッション「激動する時代の中で撓（たわ）まぬ私学経営とは」の3つのプログラムを行いました。



ウスビ・サコ氏



藤林昭一氏



嵯峨実允氏



梅村光久氏



原田賢幸氏



摺河祐彦氏

◆教育課程部会

「21世紀の世界に挑戦する新しい学びを探る」を研究目標として実施し、65名が参加しました。同部会では、①國學院大學人間開発学部初等教育学科教授の田村学氏による講演「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～知識の構造化と資質・能力の育成～」、②京都大学総合博物館准教授の塩瀬隆之氏による講演「問いのデザイン～多様な個を活かすも埋没させるも『問い』したい～」、③（京都）ノートルダム女学院中学高等学校教諭の石川真理子氏による実践発表「持続可能な社会の担い手を育てる～PBLによる学びと成長～」、④（大阪）清教学園中学高等学校司書教諭の南百合絵氏による実践発表「主体的・対話的で深い学びに通じ、生徒の賜物を育む探究学習の教育効果に関する研究」の4つのプログラムを行いました。



田村学氏



塩瀬隆之氏

◆生徒指導部会

「急速に変容する世界を生きる若者の育成を考える」を研究目標として実施し、72名が参加しました。同部会では、①佛教大学副学長・教育学部教授の原清治氏による講演「ネット社会と中学・高校生の実態～大規模調査からみえる中学・高校生の人間関係に注目して～」、②堂島パーク法律事務所弁護士の村井勝則氏による講演「ブラック校則の見直し



原清治氏



村井勝則氏

を～生徒の自己決定権とどう向き合いますか～」、③（京都）京都文教中学高等学校教諭の下野龍司氏による実践発表「現代における SNS に関する問題事例と対処法について」、④（京都）立命館中学高等学校教諭の田中孝明氏・田中京平氏による実践発表「中高 6 年間の成長度に応じた携帯電話、SNS の利用ルールと現状」、⑤（京都）同志社国際中学高等学校教諭の二股一郎氏による実践発表「校則の無い学校での生徒（生活）指導」、⑥ノートルダム女学院中学高等学校教諭の霜田慶介氏による実践発表「生徒の主体性やシティズンシップを育む生徒指導（支援）～校則・情報モラル～」の 6 つのプログラムを行いました。

◆特色教育部会

「AI の時代を生き抜く知恵と力の育成～建学の精神を根底に、未来に挑戦～」を研究目標として実施し、44 名が参加しました。同部会では、①学校法人燈影学園名誉学園長の相大二郎氏による講演「今こそ建学の精神に立ち戻って～燈園の目指すもの～」、②立命館大学情報理工学部情報理工学科教授の谷口忠大氏による講演「AI 時代において求められる教育～人工知能・ロボティクス・コミュニケーション場



相大二郎氏



谷口忠大氏

～」、③（京都）東山中学高等学校土台力教育開発センター副所長の澤田寛成氏による実践発表「『東山流土台力修得方略』～『新たな一歩、変わらぬ一歩』による展開～」、④研究協議（全体会）「各学校の特色ある教育の取り組み」の 4 つのプログラムを行いました。研究協議では当日、参加者にアンケートを実施し、浜松学芸中学高等学校、近江兄弟社中学校、開星中学高等学校、常翔学園高等学校の 4 校の先生方にそれぞれの特色教育について発表を頂きました。

◆グローバル教育部会

「私学が変える日本の教育～グローバルスタンダードへの挑戦～」を研究目標として実施し、45 名が参加しました。同部会では、①京都産業大学総合生命科学部生命システム学科教授の佐藤賢一氏による講演「グローバル化を目指して人材育成を支援する学びとは？～学習者みずからによる問いづくりを設計し、実践する～」、②（京都）花園中学高等学校副校長の中村広記氏による実践発表「花園式グローバル人材育成法～スーパーグローバル ZEN（禅）コースの挑戦～」、③（京都）立命館宇治中学高等学校 WWL 事務局長の上杉兼司氏、同校キャリア教育部部長の酒井淳平氏による実践発表「イノベーティブなグローバル人材育成への挑戦～WWL 拠点校の実践～」の 3 つのプログラムを行いました。



佐藤賢一氏

アンケートより

全体集会（私立学校活動紹介・報告・記念講演）についてのご意見ご感想

【私立学校活動紹介】

- 京都らしさたっぷりの1日目だった。特に学校活動紹介1、2で生徒達の熱心さと指導力（指導者の）に迫力を感じた。京都の私立学校の安定した良い教育の活動を確認できた。励みと同時に良いプレッシャーを受けた。
- 部活動紹介では生徒の生き活きと活動されている姿にとっても感動した。
- 和歌披講では凜とした中での和歌、オーケストラの演奏は時間の長さも感じず、印象に残るものだった。
- 特徴的な高校での部活動の様子を見ることができ、新しく学ぶことも多くあった。
- 京都の文化を守る学校での取り組みはぜひ参考にしたい。

【報告】

- 吉田先生のお話をお聞きすると、私学人としての私の視点が間違っていないという感じになり、大変自信を持った。
- 吉田理事長の報告を通して全国的な流れ、特に国への要望事項等がよく理解できた。
- 吉田会長、平方所長の報告は、現在の私学の位置を知る上で非常に興味あるものであった。
- 私学のおかれている現状や課題を会長や所長から聞いて、本当によい機会だった。これらの内容は校内の教員全てが知ることは理想だ。
- 全国の私学が直面している現状と取り組むべき課題についてわかりやすく報告頂き有り難い。
- 初めて研究集会に参加したが、地方にいと今、文部科学省が何を考え、何を考えていないのかがよく理解できない。様々な情報を教えて頂き、大きな刺激になった。また、私立の自由性を実感でき、やり甲斐を再認識した。
- 教育政策、私学情勢について、対私学への支援の問題、日本私学教育研究所の取り組みを詳しく報告して頂き有意義だった。
- 吉田会長の話は熱く、私学人として深い感銘を受けた。私学の厳しさを再認識した。
- 平方所長の話から様々な年齢層をターゲットにして研修を行われていることがよく分かった。

【記念講演】

- 短歌を通じて「型」とそれを理解する教養が京の文化の神髄であることがわかった。
- まさしく京都の文化を四季折々の場面をイメージし奥ゆかしさを生徒達の歌を通しご教示頂いた。日本の美、まさしく、日本人としてのアイデンティティを明確にご教示頂いた。
- 和歌についてわかりやすいもので、日本の古典文化についても学ぶことができた。
- 和歌について、日常的にこのようなものを観ることはないので刺激になった。
- 変えるものと繋ぐもののバランス感覚の大切さに改めて気づかされた。
- 「京の文化」の奥深さを改めて学んだ。あつという間の1時間半だった。
- 開催地ならではの内容であり良かった。気づきや発見もあった。
- 極めて日本らしい文化の側面を聴かせて頂きゆかいなひとときだった。またそのような文化を傳承している生徒達も素晴らしい。
- 自分の心にある日本人としての心を再確認できて豊かな時間となった。
- 日本の伝統文化を守り抜く姿勢が和歌の中に含まれており、必死でメモしながら感心させられた。

各部会の内容等についてのご意見ご感想

【私学経営部会】

〈基調講演〉

- 多くの学びがあった。日本の教育改革の方向性が示されていたことを生かしていきたい内容だった。
- 講師自らの体験を含めたお話が興味深く聞かせて頂いた。
- 「グローバル」という概念を見直し、まず、自分の文化をしっかりと知ることを生徒にもしっかりと伝えたい。多様性の中で日本がどう見られているかというより、どのように共に生きていくかを子ども達と一緒に考えていきたい。
- 個のあり方、日本文化のとらえ方、日本の考え方など、考えることが多く、これからの生徒に何を残す(伝える)のかを考えることが多くあると感じた。
- ユーモア溢れる講演に感銘を受けた。特にマリと日本の教育システムの違いは興味深かった。
- 素晴らしかった。日本がどう見られているか、そこで育つ子ども達はどう見られるか＝何が不足しているのか。実体験に基づく説得力のある話は本当に有り難かった。
- 子ども達の未来についての考え方に共感させられたり、考えさせられたりする点が多々あった。今後の子ども達の指導に役立てていきたい。
- まさに激動する時代の中でどのような生徒を育てるかの車軸になる話で有意義でためになった。
- 真のグローバル化とは何かを学ばせて頂いた。教育現場でのコミュニケーションの大切さを痛感した。
- 大変感銘を受けた。違いと共に成長すること、多様性を認め学び合うこと、自分の変化を恐れるな、「問い」を立てられる力など生徒に聞かせたい話だった。

〈実践報告〉

- 学校経営を行う上でとても大事なお金の運用の話で経営者の方にとっては貴重な時間であった。
- 知らない分野をわかりやすく説明され良い勉強になった。
- 私学振興会の私学に対する貢献が非常に大きい事が改めてわかった。

〈パネル・ディスカッション〉

- 学校ごとに抱える問題は様々だが、似ているものであるし、対策も似通っていると感じた。
- 3校の取り組みが詳しく紹介され、非常にためになった。
- 3つの学園がそれぞれの教育理念をあげられ、特色ある教育をされているところに私学らしさを強く感じる事ができた。
- 今の学校現場の運営の中で必要な点について様々な観点から取り上げて頂き参考になった。
- 扱われたテーマがタイムリーなものでとても興味深く学ばせてもらった。特にリアリティのある報告で参考になった。
- 具体的な事例となり大変参考になった。本音と生の声があり難い。コーディネーター、司会、パネリストの先生方の呼吸が素晴らしかった。
- コーディネーターの事前予備知識の習得のおかげで各地、各学校の代表の多様な取り組み、コメントを聞くことができてよかった。

【教育課程部会】

〈講演Ⅰ〉

- 「深い学び」の意味がよく理解できた。「考える」を具体的に生徒にさせる方法、授業での生かし方がわかった。実践にうつしていきたい。自校でも講演してもらいたい。
- 学習指導要領の観点から探究学習の学びの方法について理解できた。学校授業の中でアクティブラーニングの重要と生徒が主体的に学習することが大切であることがよく分かった。
- 大学の講義をうけているようでとてもわかりやすかった。授業の終末に「ちょっと長めの文字言語」という詞が印象的だった。
- 現在悩んでいるALなど多くのことを聞くことができ、今後の自信の授業から学内全体の授業への拡大を考えている。
- これまでの研修等で薄々気づいている学びの形を変えなければいけないこと、つまり授業の組み立て方を変えなければいけないことを、改めて丁寧に実例を踏まえて教えて頂いた。
- テンポよくわかりやすく、また実践あるのみの感を強く持った。
- 主体的、対話的で深い学びについてとてもわかりやすかった。新指導要領の完全実施に向けて、いろいろと参考になり、実践につなげることができたらと思う。
- 大変濃厚な内容ながら、新学習指導要領の大きなテーマである「主体的・対話的で深い学び」の真意をずばりおさえた講演で大変わかりやすく学ばせて頂いた。
- 非常に有意義なものだった。社会に出て必要な能力・技術を身につけさせていくことは大切で教育としてやっていかなければならないと思う。しかし、大学受験が知識中心になっている現在はなかなか難しいという思いもある。
- 自分の教科指導のアップデートの方向性が確認できた。

〈講演Ⅱ〉

- 深く勉強になった。Slidoによる参加型、素晴らしい。
- 批判的な物事の見方で興味深く聞くことができた。
- 未来の社会を担う子ども達のために我々大人は学び続け、生徒と共に成長していく視点や実行力が必要だと痛感した。知識を「つなぐ」、問いの質など教育現場に有用な教えを得られ、有意義な時間だった。
- 今までに受講したことのないような内容だったので改めて考えさせられた。

〈実践発表Ⅰ〉

- 生徒1人1人との取り組みなど、多くの事例を観させて頂き今後のイメージができた。
- 実践されてきたものだけに、非常に感銘を受けた。今後の教育活動のヒント、糸口を頂いた。

〈実践発表Ⅱ〉

- 南先生の取り組みは実践にあたり相当量の準備とフィードバック、労力があるかと思う。とても素晴らしい取り組みだと感じた。
- 読書→卒論→自己探究、素晴らしい実践で感動した。
- 総合学習・探究学習の実践発表は大変参考になった。
- 南先生の論文の取り組みは感動した。図書館の利用、読書のあり方、すべて目から鱗だった。

【生徒指導部会】

〈講演Ⅰ〉

- とても勉強になった。教育現場でのグループ編成における注意すべき点や観察すべきポイントなどすぐにでも実践したい。
- SNS、携帯の問題が生徒のコミュニケーションなど、本質的な問題であることがわかり、今後の考え方として重要なものになった。
- とても感銘を受けた。教えて頂いた情報や生徒の心の中の本性を考えなければならない。
- なるほどと感じることが多く、今までを振りかえってみて、なぜそうなったかと理由を考えることができた。また今後の学校教育の中でなぜだろうと感じることや生徒1人1人の価値観を受け止め、生徒と向き合っていかなければと改めて思った。
- ケータイ（SNS）でないと繋がれない生徒がいると聞き、SNS規制するだけの指導では扱われなくなることもある危険を感じた。柔軟な考えも必要なのかもしれない。
- ネットいじめ（いじり）は以前から現場で問題になっていたが、具体的なデータに基づいて考えられる原因を示して頂き参考になった。
- 様々な場面で聴講していますが、一段と磨きがかかり、特に最新の情報提供や書籍についても興味を持った。ネット社会は日々複雑になっていく一方、それに対応していく能力が必要だと感じた。
- 誠に総合力の卓越した充実の時間を提供して頂いた。こうした場面を提供していけるような充実した心境をさらに高めていかなければならないと強く思った。
- 現在の SNS によるネットいじめの具体的な掘り下げた分析による話が聞け、とても有意義なもので、ぜひ私の地元でも講演頂きたい。

〈講演Ⅱ〉

- 学校現場で今特に問題となっている「ネット社会」及び「SNS の利用ルール」など参考になった。また、校則の見直し等もとても勉強になった。
- 校則と懲戒のバランス、教員の調査に関する姿勢、憲法 13 条の大切さ、勉強になった。
- ブラック校則に関して、ルールより指導、学校自体がどうあるべきかを考える機会とさせて頂きたい。
- 法の視点から校則の捉え直しは興味深く拝聴した。
- 「ブラック校則」は存在せず、処分の違法性が争われること、生徒の自己決定権、学習権への配慮が大切であることを学んだ。
- とても参考になった。弁護士でも見解が違うときがあり、1つの見解として理解できた。
- 法律論をもとに校則について考え方指導方法についての的を射たものであった。今後活用したい。

〈実践発表Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ〉

- 担任の立場として今後活かしていけるものが多く参考になった。
- 多様な学校における多様な生徒指導が多様な生徒に対する解答と思った。「公立にない」良いところだ。
- キリスト教系の学校での生徒指導について話を聞くことができよかった。処分ではなく指導をキリスト教系の本校でも徹底していきたい。
- 二股先生の実践発表は、考えさせられる面が多くあり、自校とは全く違う校風に驚くと共に校則の考え直しを迫られているようだ。

- 非常に参考になった。生徒の実態や学校の教育目標に合わせた見直しが必要であると感じた。また、何をやるにしても、生徒や保護者、教員それぞれの共通認識が重要である。
- 各学校の取り組みを知ることができ、とても参考になった。自校でも校則について話題にはなるものの、部や学校としての動きが難しく、現状に合っているのかと疑問を持つことも多いので、今回の話を参考に考えて行きたい。

〈生徒指導部会全体を通して〉

- とても勉強になり、本校に戻り、他の教員にも共有していきたい。
- 原先生、村井先生の話は非常に勉強になった。すぐにでも取り入れないといけない事柄や改善すべき指導がピックアップされた。
- 大学の先生、弁護士という立場からの知識、助言は貴重に感じました。
- 昨今、保護者対応に苦慮しているが、子ども達の成長のための指導、将来に向けた人づくりを再認識したい。
- 原先生、村井弁護士の講演がとても参考になり、就学支援の上で事象対応ばかりに追われるのではなく立ち止まって本質を見つめる事の大切さ、その姿勢に学ぶことが重要であると気づかされた。
- 2つの講演と4つの実践発表はとても分かりやすく、大変勉強になった。特に原先生の今、現在の生徒達のかかえている問題の話と下野先生の SNS のアンケートの集計結果のまとめは生徒指導担当者としてとても参考になった。
- 原先生のデータに基づいた分析、村井先生の法に基づいた講演、また多様な高校の実践報告とどれをとっても素晴らしく大変勉強になった。
- どの話も現状直面している問題の事案だったのでとても良かった。
- 本校に全て合った内容で全て取り入れることは難しいが、スモールステップで少しずつ変容する世界に順応できる生徒を育成していかなければならないと考えさせられた。

【特色教育部会】

〈講演Ⅰ〉

- 生徒が中心にある（いる）ことを強く感じた。究極の教育の形に感動しました。
- 心洗われる思いだった。
- 学校の創設者の話から、学校全体の話まで一燈園そのものが特色教育の教材になることを感じ、素晴らしいと思った。
- 一燈園の教育は、まさに特色教育であると改めて感心させられた。

〈講演Ⅱ〉

- AIについて考えさせられた。自分自身かなり整理できた。
- 大変刺激的で今後の教育の方向性を考えさせられた。
- 刺激的だった。AIの認識を改め、数学の面白さを伝える所まで生徒達に伝えたい。
- AIの話とビブリオバトル、そして教育へとつながり面白かった。

〈実践発表〉

- 東山中学高等学校の取り組みに学ぶ点が多かった。やはり他校の実践を知る機会は大切である。
- 学校改革についての実践が大変参考になった。今後、本校のスクールポリシー策定に生かしていきたい。
- もっと多くの先生が様々な取り組みをされているのだろうと想像できる。同じ方向を向くことができるように思いをまとめていく作業のところは管理職の腕の見せ所である。

〈研究協議〉

- 他校の特色教育の内容が研究協議で聞くことができよかった。
- たくさんの知識を共有してもらい非常に勉強になった。
- 各校の様々な取り組みに接することにより、自校でも参考になることも多く、情報を共有できる良い機会だった。
- 各校がそれぞれの建学の精神に立って特色ある教育をされていることを再認識させて頂いた。今一度、原点に立ち返り、自校の教育にあたっていきたい。
- 多くの学校の実践を聴くことができ、自校での取り組みのヒントにできそうなことを得ることができた。

【グローバル教育部会】

〈講演〉

- 「問いづくりを設計し、実践する」、主体的、対話的で深い学びに通じる興味深い内容であった。
- 主体的な学びの必要性を痛感。「問い重ね」は難しい。グループワークは和やかだった。自らに絶えず「問いかける」ことの重要性を教えて頂いた。
- 今、思い返すと授業内で質問しているのは生徒よりも私からの方が多いと気づくことができた。今後、授業内においても少しでも生徒からの質問が増えるように努力していきたいと感じた。
- 探究学習において、「土台となるスキル・マインドを育てる」に共感した。実際にどのような活動をしているのかを見てみた。
- 問いを変えることを深化させて学びを進めていく手法について、とても参考となった。
- 探究活動を行う上で非常に具体的で実践レベルでの話だったので大変有り難いものだった。
- ワークショップでPBLの効果、協働の重要性を改めて認識した。
- 自ら問いをつくり、SDGsを理解するテーマの中で、グローバル化とは何かと思った。巷でよく聞く単語だが、真の意味での理解は難しいと思った。生徒達と共に学びたいと感じた。

〈実践発表Ⅰ〉

- 熱意溢れた、思い切った取り組みに感動した。
- 海外大学へ正規入学を目指す姿勢に感服した。京都でグローバル人材を育成する勇気に驚いている。
- 中村先生の熱弁は話の内容と共に大いに参考になった。
- NIC やオンライン英会話など、私学ならではの紹介があった。自分自身へのスキルアップにもなるので参考にしたい。

〈実践発表Ⅱ〉

- 積み重ねてこられた質の高い様々な取り組み圧倒された。
- WWL、SDH がリマインドできた。SDGsを通してQFTについての紹介が有り難い。GFTを利用してクラス活動や英語のロールプレイができそうな感じがする。
- 2校ともそれぞれユニークな取り組みをされており、国内に留まらず世界を視野に入れた、まさにグローバルな人材を育てる教育を実践されていることがよくわかった。ただ、コロナ禍での実践はさぞ大変なこともあっただろうと想像できる。先生方の一体感が伝わってきた。
- 先生方の情熱に感動した。創意工夫し、生徒のことを考えておられる姿勢から学びたい。

参加者数（部会別・都道府県別）

◆部会別参加者数

No.	部会名	参加者数	No.	部会名	参加者数
1	私学経営	125	4	特色教育	44
2	教育課程	65	5	グローバル教育	45
3	生徒指導	72	6	全体集会のみ	29
				計	380

◆都道府県別参加者数

No.	都道府県	参加者数	No.	都道府県	参加者数	No.	都道府県	参加者数
1	北海道	8	17	石川	2	33	岡山	0
2	青森	0	18	福井	0	34	広島	7
3	岩手	2	19	山梨	3	35	山口	0
4	宮城	1	20	長野	2	36	徳島	1
5	秋田	1	21	岐阜	15	37	香川	1
6	山形	3	22	静岡	7	38	愛媛	1
7	福島	1	23	愛知	17	39	高知	0
8	新潟	1	24	三重	3	40	福岡	8
9	茨城	1	25	滋賀	18	41	佐賀	3
10	栃木	2	26	京都	128	42	長崎	5
11	群馬	2	27	大阪	29	43	熊本	1
12	埼玉	3	28	兵庫	11	44	大分	5
13	千葉	6	29	奈良	7	45	宮崎	1
14	神奈川	12	30	和歌山	2	46	鹿児島	1
15	東京	38	31	鳥取	8	47	沖縄	2
16	富山	0	32	島根	11			
							計	380

以上

☆詳細な報告は、年度末までに作成の「全国私学教育研究集会京都大会研究集録」に記載致します。

次年度（令和4年度）全国私学教育研究集会岐阜大会は
岐阜県岐阜市・長良川国際会議場／都ホテル岐阜長良川／ホテルグランヴェール岐山において
令和4年10月20日（木）～10月21日（金）に開催致します。